●事例紹介●

豊橋技科大高専連携室の取組

青木　伸一
（豊橋技術科学大学高専連携室長教授）

一万人の高専本科卒業生の約四〇％が進学する時代になりました。一九九四年の進学率が二〇％であったことを考えれば、わずか一〇年で倍増したことになります。さらに、専攻科修了生も三人に一人は大学院へ進学しており、高専～大学／専攻科～大学院というルートが高専生にとって一般的な進路になってきたことが分かります。同時に、専門技術の習得よりも進学を目標として勉強している高専生の姿が垣間見えます。

高専生の受け皿として誕生し、高専とともに歩んで来た豊橋技術科学大学も、三〇年の時の流れを経て、そのおかれた立場や役割が次第に変化してきました。一九九二年から順次設置されてきた専攻科も今ではほとんどすべての高専にあります。また一般大学も高専生を積極的に受け入れており、高専生にとっては、技術科学大学も卒業後の進路の数多い選択肢の一つであり、昔のように特別な存在ではなくなっています。これは、高専生の優秀さが社会に認められたことにほかなりませんが、本学にとっては大きな影響を受けることになりました。最近では、専攻科や地元大学を目指す高専生が増え、また高専も地域との連携を積極的に押し進めているため、ますます技術科学大学への進学の動機づけが難しくなっているように思います。

以上のような変化や、これからの少子化時代を考え合わせると、社会に対する高専および技術科学大学の役割を見直さなければならない時期に来ていることは明らかです。

両者が社会に対する存在意義を示すことができるような、若者に対して魅力的な新しい技術者教育の姿を示すことが必要でしょう。そのためには、高専と技術科学大学との連携が今後ますます重要性を増すと思われます。

本学では、二〇〇四年の法人化とともに、「高専連携室」を立ち上げました。高専連携室の役割は、対内的には、高専向けに行っている様々な業務について、ルーチンワークからやや離れた立場から新しい企画・提案を行うこと、対外的には、高専への窓口となって本学のスポークスマン的な役割を担うことと考えています。高専連携室のホームページでは、高専向けの情報を整理するとともに、なるべく本学を身近に感じてもらえるように、高専生からの質問を随時受け付け、個別に回答しています。また、本学の卒業生で高専の教員になられている先生方（以下ＯＢ教員）とのつながりを強くするために、交流会を開催しています。現在ＯＢ教員は約一六〇名おられますが、これらの先生方は本学三〇年の歴史が生み出した貴重な人的財産であり、ＯＢ教員とのつながりを強化することは、高専との連携において非常に重要だと考えています。

本学の魅力を伝えるための高専への広報活動にも力を入れています。今年度から「高専訪問エキスパート」制なるものを新たに立ち上げ、約二〇名の教員でチームを組んで高専への働きかけをより積極的に行っています。さらに、高専の見学旅行等にも利用してもらえるような「技科大ラボツアー」を立ち上げました。ほかにも、毎年夏休みには、百数十名の夏期体験実習生の受入れを行っており、なるべく多くの高専生に技科大を見てもらう機会を増やす努力をしています。

研究面での連携も今後の重要な課題の一つですが、平成一六年度からは、学内の競争的研究経費において高専との連携研究が奨励され、高専にも研究費を支援しています。これをきっかけにして高専の先生方とのつながりがさらに深まることが望まれます。

本学は、高専から連続した質の高い技術者教育と先端研究を行っている大学と自負していますが、それだけでは最近の若者には魅力的ではないのかも知れません。本学の魅力を増すためには、高専から技術科学大学へと続く一貫した技術者教育の新しい形を示すことが必要です。一般大学や高専専攻科とは違った技術科学大学の魅力をいかにして打ち出せるかに本学の命運がかかっていると考えています。